

さいたま市文化財時報

# かや 榎りぼーと

第 35 号

## さいたま市無形民俗文化財 「日進餅つき踊り」と「指扇の餅搗き踊り」

「餅つき踊り」は、複数の搗き手が息を合わせ、リズムカルに杵を動かして、搗いた餅を振舞うという民俗芸能です。古くは、地域内の男子が、七五三や新築祝い等の祝い事のある家に依頼され、来客に配る餅（接待餅）をつきました。

四本柱を組んだ舞台中央に置いた臼に、蒸した餅米を入れ、餅の状態になるまで搗く過程で、餅米を捏ねる「しんしょう搗き」と、曲芸のような「曲搗き」を行います。

ここでは、市指定「日進餅つき踊り」（北区）と、「指扇の餅搗き踊り」（西区）の内容、保存団体による活動を紹介します。

平成21年度 年末年始の公開

### 日進餅つき踊り

日時 1月1日(祝) 0時～0時40分

場所 日進神社  
(北区日進町2-1194)

### 指扇の餅搗き踊り

日時 12月31日(木)  
23時30分～24時10分場所 五味貝戸自治会館  
(西区指扇291)

# 日進餅つき踊り(昭和34年2月4日指定)

保存団体 日進餅つき踊り保存会  
 認定年月日 平成15年4月30日

## 1 成り立ち

言い伝えでは、江戸時代に、参勤交代で中山道を利用する大名や武士を接待するために行われたのが、始まりとされています。

上加村(現在の北区日進2丁目)に在住する家の長男で構成された搦き手が、地域内の祝い事の際に行っていましたが、大正から昭和初期の間、戦争等により中断を余儀なくされました。

昭和25年から、故荻島正平氏(初代保存会会長)が、自宅に仲間を集め、餅つき踊りの再開のための練習を始めました。戦後の混乱の中で、青少年を守り、心身の健全育成を行うことも目的の一つでもありました。

その後、約50人の男子による保存会が発足し、依頼された民家の庭に舞台を作り、盛大な餅つき踊りが行われました。



▲子供の祝いのために行われた餅つき踊り(昭和30年代)

## 2 さまざまな搦き方



▲豊穣の搦き  
 農村の豊かな実りを祝う歡喜の気持ちを表現しています。



▲瑞祥の搦き  
 丹頂鶴の飛び立つ様子を表し、めでたいことを象徴しています。



▲感謝の搦き  
 手拍子で戦勝を祝う様を表現しています。

## 3 日進餅つき踊り保存会の現在の活動

年始の日進神社の奉納を始め、北区民まつり等地域のイベント等で披露し、搦いた餅の配布を行っています。

また、日進北小学校等、地域内の小、中学校で体験授業も実施しています。

名簿登録人数は60人で、会員、子供部、自衛隊部で構成され、定期的な練習を行い、技術の保持に努めています。



▲子供部の練習

## インタビュー 日進餅つき踊り保存会 鈴木正直会長・荻島恭平相談役

今後も後継者育成等の活動を行っていきたいと考えています。「餅つき踊り」を始めて、約30年間の間に、さまざまな思い出がありますが、特にテレビ出演等が思い出深いです。(鈴木会長)

この「餅つき踊り」は、四人が力を合わせないとできません。初代会長の父の影響で、25歳で始めた私は、餅つきを通して、人と人とのつながりを学びました。(荻島相談役)



▲鈴木会長と荻島相談役

## 指扇の餅搗き踊り(平成15年4月30日指定)

保存団体 指扇地区餅搗き踊り保存会  
認定年月日 平成15年4月30日

### 1 成り立ち

指扇地域(現在の西区别所、指扇、宝来、赤羽根)において、祝い事のある家に依頼をされて行っていました。「別所の接待餅」とも言われています。

由来や発祥は不詳ですが、明治初めには、この地域で行われていたようです。昭和20年代から30年代初めには、地域内の男子30人余りがこの餅つきに参加していました。当時は、各家に臼があり、冬季になると、毎晩、家の庭で稽古を行いました。

昭和35年、杵等道具の焼失から一度途絶えたものの、平成5年に保存団体である指扇地区餅搗き踊り保存会により復活しました。



▲大宮市おはやし大会(昭和31年)

### 2 さまざまな搗き方



▲手拍子

リズム良く、順番に手拍子を入れる。



▲水車・風車

水車のように杵を回し、飛び上がる。



▲チョイ

杵を足にくぐらせながら、搗く。

### 3 指扇地区餅搗き踊り保存会の現在の活動

年末の五味貝戸自治会館を始め、指扇まつり大会等地域のイベント等で披露し、搗いた餅の配布を行っています。

また、指扇中学校での体験講座による後継者の育成や、定期的な練習を行い、技術の保持に努めています。会員数19人。



指扇中学校での体験講座▶

## インタビュー

### 指扇地区餅搗き踊り保存会 池谷勝則会長

私が、「餅搗き踊り」を始めたのは、昭和20年の14歳の頃です。父、祖父をはじめ、先祖代々行ってきたので、興味がありました。そのころから、練習で覚えたことはノートに記録してあります。このノートと自分の体で覚えたことをもとに、途絶えていた「餅搗き踊り」の再興のため、平成5年から練習を行い、翌年、38年ぶりに披露となりました。

現在も、地域内での公開を積極的に行っていますが、特に後継者の育成を進めていきたいと思っています。



# TOPICS 「埼玉県行政文書」が重要文化財に指定されました!

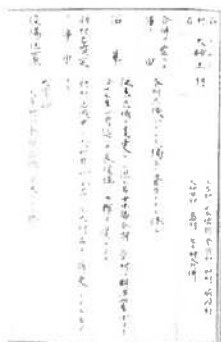
- ① 指定年月日 平成21年 7月10日
- ② 所有者 埼玉県
- ③ 所在の場所 浦和区高砂4-3-18
- ④ 管理者 埼玉県立文書館

「埼玉県行政文書」は、明治4年（1871）の埼玉県庁の立庁から昭和22年（1947）の間の行政執行において、作成、整理、保存された11,259点の文書です。

埼玉県に係る歴史的、文化的な財産として、その学術的価値から、行政文書としては、全国で3番目の国の重要文化財として指定されました。



▲秩父暴徒関係書類及び秩父暴動始末  
[文書番号 明946~950]



## ●さいたま市と「埼玉県行政文書」

平成13年に浦和市・大宮市・与野市が、そして平成17年に岩槻市が合併して、現在の「さいたま市」になりました。今から100年前にも同じように、全国で町村合併が大規模に行われましたが、現さいたま市域でも、大砂土村が、7つの村の合併で誕生しました。中心となった大和田村・砂村（見沼区）、土呂村（北区）の最初の一字を取りこの名前となりました。このような地域変遷の基本的な文書も、「埼玉県行政文書」に含まれています。

◀大砂土村の合併（明治22年）[文書番号 明656]

## お知らせ

### 田島の獅子舞（さいたま市無形民俗文化財）〔春の祭礼〕

日時 平成22年 3月14日(日) 16時～ 見学無料

場所 田島氷川社（桜区田島4-12-1）

大獅子、女獅子、中獅子からなる3頭の獅子が、笛や太鼓の音で、優美に舞います。

※天候などにより日程が変更することもありますので、詳しくはさいたま市のWebページを御覧いただくか、文化財保護課（☎829-1723）までお問合せください。



### 人間国宝 増田三男氏御逝去

重要無形文化財「彫金」保持者である増田三男氏（さいたま市出身）が、平成21年 9月 7日に御逝去されました（享年100歳）。謹んで御冥福をお祈りいたします。

